



くすりと健康

一般社団法人
神戸市薬剤師会

COPD (慢性閉塞性肺疾患)

COPDは、タバコの煙などに含まれる物質を吸い込むことで、肺の細胞である「肺胞」や空気の通り道である「気管支」が炎症を起こす病気です。

肺は、咽喉から枝分かれをした太い気管支から徐々に細い気管支へと枝分かれしてゆき、その先に肺胞があるという構造をしています。喫煙をすると細い気管支にまず炎症が起こります。その時点ではCOPDを発症したとはいえませんが、長い期間喫煙を続けることでその炎症が慢性化し、COPDを発症します。さらに、太い気管支や気管支の先にある肺胞に炎症が広がってCOPDの症状が進んでいきます。そのため、患者の90%は喫煙者ですが、喫煙者全員が発症するわけではないので、遺伝的因子など他の要因もあるのではないかと考えられています。

症状は、初めのころ自覚症状はあ

まりありませんが、進行していくと気管支の炎症で空気の通り道が狭くなり、坂道や階段を上るときなどに息切れを感じるようになります。さらに進行すると平地を歩いたりするだけで息切れするようになります。さらには服の着替えなどの日常動作でも起こるようになります。

一度壊れた肺胞は元には戻らないため、COPDを根治させる治療法は今のところありません。したがって、病気の進行を遅らせたり、自覚症状を改善したりする治療が基本となり、喫煙者であれば禁煙が一番です。禁煙することで、病気の進行を遅らせることができます。また、インフルエンザなどの呼吸器感染症をきつかけとして症状が悪化することがあり、回復に時間がかかるのでワクチン接種などで感染を予防することも必要です。薬を使用することで症状を軽くし、生活の質の改善を図ることができま

す。狭くなった気管支を広げ息切れを防ぐ気管支拡張薬や去痰薬などが使

われます。症状の増悪を繰り返す場合には、気管支の炎症を抑える吸入ステロイドや内服薬が追加されることもあります。さらに症状が悪化し安静時でも息苦しくなる場合には、酸素ボンベによる酸素吸入もおこなわれるります。

ほかの治療はリハビリテーションがあり、効率的な呼吸をするためのトレーニング、筋力や持久力を維持するための運動療法などがあります。息苦しいため体を動かさないでいると筋力が落ちてしまい、同じ動作でもさらに強い息切れを感じ体を動かさなくなるといった悪循環に陥ってしまいます。それを防ぐためにはトレーニングが必要で、日常生活に無理のない程度運動を取り入れることが大切です。長期間喫煙を続けており、息切れ、長引く咳や痰を自覚されている方は、一度医療機関を受診し、検査されることをお勧めします。

(北区 薬局エビラファーマシー

松本 博志)